

改善計画書

施設名 安永保育園

(担当者 國光・菊田・坪井・御手洗)

(作成年月日

令和 6年 3月 14日作成)

改善事項等		施設コメント							
(施設として続けることに努める点) やり続けていくこと	1	保育に支障の出ないよう職員同士協力し合って、毎年、年次有給休暇を全職員が毎年100%取得できている。	今後も継続できるように、さらなる制度の充実を図っていく。						
	2	書類業務や会議の簡略適正化や保育準備の効率化、行事内容の適正化など日常業務の改善を徹底して、無駄な残業や持ちかえり業務など起こらないようにしている。	今後も継続できるように、さらなる業務改善の充実を図っていく。						
	3	園の方針や年齢別の方針について明確に文書化し、忠実に保育に反映できており、その内容も、研修や他園の実習など自己分析をして、逐次、アップデートしている。	現場職員の意識をしっかりと反映しながらアップデートしていきます。						
	4	各方針に沿い、職員の研修に関しては、質の高い外部の講師研修だけでなく、他園への保育実習や小学校の授業見学など、自園以外の保育や教育を勉強する機会を設けている。	個々の意思を尊重し、聞くだけでなく、現場を体験する研修を増やしていく。						
	5	子どもの声や気持ちを真ん中にした保育実践にこだわりをもって、環境の設定、人員配置にはじまり、玩具や道具の質や保育士の言葉の選択や表情に至るまで、保育の質の向上に関して職員個々が高い意識を持っており、日々遊びや活動を展開している。	保育の質の向上に関して高い意識を持ち、多くの話しあいや実践チャレンジを今後も重ねていきます。						
	6	安全管理（子供のけが・疾病・心等）についても、ヒヤリハットやチェックリストなど利用しリスク管理を丁寧にし、子どもの命と身体、心の安全を最優先にした保育を実践している。	子どもの安全管理は、最優先事項と捉え保育を行っていきます。						
	7	成長、発達に合わせたり、“今”夢中になっている遊びが広がるために、何が必要かを考慮した保育環境を常に職員間で話し合い、子ども達の興味やおもいに応えられるよう、その時に必要な什器や保育用品の配置などの保育環境を整えている。	日々アップデートを重ね、その時期に適した保育環境の追求を今後も行っていきます。						
	8	全クラス複数担任制により、一人ひとりのペースに寄り添うことで安心して生活できる環境を整えている。また、子ども達が生き生きと生活できるよう、子ども達への関りや会話に関しては、一つひとつ丁寧に受けとめ、こだわりを持って保育している。	子どもの声や気持ちを丁寧に受け止めることを大切に、一人ひとり尊重した保育を行っていきます。						
	9	保護者アンケートでも満足度が高かった様に、その日の子ども達の様子を具体的に伝えるなど丁寧な日々の保護者との会話により、保護者と職員との距離を近くし、相談しやすい関係づくり、安心、信頼して預けられる環境を大切にしている。	保護者個々との会話を大切に、互いに気兼ねなく話せる関係作りを大切にしていきます。						
	10	日常の子どもの様子日々の声を写真、動画などアプリを通して発信したり、クラスの個別懇談会、副園長・主任との育児相談会の他、保護者からの声があれば随時個別に懇談を行い、その後の様子も伺っていくなど、きめ細やかな対応を行っている。	見える化や会話する環境を増やす事で職員と保護者との安心、信頼できる関係づくりを継続していきます。						
	課題・改善点	達成目標	期間	開始時期	達成時期	改善スケジュール（人・予算・情報・手順等）	担当		
すくせいのじや じや	1	職員個々の目標設定	目標設定の書式づくり 人材育成に繋がる仕組みづくりをする	1か月	令和6年	令和6年4月	現在の目標設定の様式を見直し、目標設定と自己評価で自己成長をうながし、それぞれに対しての進捗を話あう機会を増やし、その精度をあげていく。	園長・副園長 ・主幹保育教諭	
	2	理念や方針の周知	保育に関する理念や方針の保護者への理解	2か月	令和6年	令和6年7月	理念や方針について、入園時に保護者にしっかりと周知説明し、保護者面談で、当年度の目標や方針などをしっかりと説明する。理念方針に沿った活動はしっかりとできているので、継続していく。	全職員	
	3	園長と現場保育士との意思疎通	園長と現場職員との意識共有	即日	即日	即日	園長が、四力園の理事長も兼任おり時間の制約はあるが、副園長との分業で協力をしながら、面談や現場参加の回数を増やし、会話の回数やコミュニケーションの質を上げ、職員との相互理解を図る。	園長	
	4	地域との交流	この地域で可能な交流を模索し実践する	即日	即日	即日	保育士の小学校への授業参加や地域企業による出前授業などの実施を今後も継続し、その種類を増やすことで、施設内という安全な環境で地域との交流を図っていく手法を模索する。	園長・副園長 ・主幹保育教諭	
工夫を凝らす じや	1	中・長期的なビジョンの見える化	中・長期的な法人経営ビジョンの策定・公表	1年	令和7年度	令和7年7月	中・長期的な法人経営ビジョン策定し、理事会で協議し、でき次第、職員に周知説明を行う	理事長・園長	
	2	職員の休暇取得制度の充実	新しい職員の休暇取得制度の設置	3年	令和9年度	令和9年4月	職員の個々の状況（育児や介護、旅行など）にあわせて、連続休暇など休暇をとれる制度など、取り方の運用の柔軟性を検討し、業務に影響がないか検証しながら工夫して行っていく。	理事長・園長	
	3	ボランティア手引きの整備	ボランティア手引きの作成	1年	令和7年度	令和7年4月	実習以外のボランティアなどの受け入れ規約やマニュアルを作成する	副園長 ・主幹保育教諭	
	4	年功序列の人事評価制度	年功序列以外の人事評価制度	5年以内を目標	令和11年	令和11年4月	現状、結果、保育士経験値、園での業務実績での評価をすると、年功序列となってしまう。それ以外での資格試験や個別人事評価表などでの評価基準が、今後必要な場合は即座に対応することとする。	理事長・園長	
	5	保育の標準的方法の文書化	保育の手引きなどの整備	3年	令和9年度	令和9年4月	子ども一人ひとりの発達、状況に応じた基本的な援助の仕方、留意点など分かりやすく文書化し職員が十分理解した上で実施していく。一気に進めるのではなく、アップデートを重ねながら整備していく。	全職員	
予算化しない じや	1	職員が休憩できる専用スペースの整備	事務所以外に休憩できる 休憩専用のスペースを作る	未定	大規模修繕 可能時期	大規模修繕 完了期	現施設では休憩できる専用のスペースは困難であるため、使用可能な場合は、空き保育室を使い休憩空間の確保に努める。大規模修繕が可能な場合、休憩スペースの設置を優先的に考慮する。	理事長・園長	
	2								
	3								